

この歌は私の人生で最初に覚えた歌です。私は父の仕事の都合で、現在の山梨市の牧丘町に住んでいました。昭和二十二・三年頃、この町での婚礼は夜行うことが多く、夕方になると近所の女性たちは嫁ぎゆく女性の家に集まって、この「花かげ」の歌を歌って泣く泣くお別れをしていました。まだ五才だった私も、いつしかこの歌を覚えていました。

十五夜お月さま ひとりぼち
桜吹雪の 花かげに
花嫁すがたの お姉さま
俣にゆられて ゆきました



花かげ

小湯の上 松倉 秀男

牧丘町はこの歌を作った大村主計さんの生まれた町で、今でも道の駅や町営温泉の名前は「花かげ」です。時々歌うこの歌は私にとって心の歌、一番好きな歌なのです。

大方は枯れたる枝の桜かな

この句はNHK俳句大会で秀作に選ばれた一句です。かつて花見新道は花のトンネルといわれて水月園へ連なっていたそうですが、現在、大木の枯れた幹は切られて樹形としては哀れな姿の木が多い。もし幹が切られずに桜が咲いていればきれいだろうにという、仮定の姿を詠んだ句なのです。きちんと手当てすれば桜も立派であり続けるという樹木医の話も聞きました。

思い出を大切に 新たな気持ちで

社ヶ丘 北村 美香



私は社ヶ丘に住んでいます。医王渡橋の横の急坂を上がって星ヶ丘へ続く道沿いに家があります。家の玄関の正面に水月園



が見え、毎年春になると桜を見ることが出来ます。

今、小学五年生になる娘が保育園に通っていたころ、玄関から見える水月園の桜を見て「あそこどこ?」行ってみたい。「行ってみようか。」と二人で歩いて行ったことを覚えています。正直私も大人になってからは、ほとんど行った記憶もなく新鮮な気持ちでしたが、その後は家から見ることもできるせいか、水月園までいくこともなく今日までできました。今回このような昔を思い出す機会をいただいて、娘も大きくなり、また一緒に歩いて水月園の桜を見に行けたらいいなと思います。

そして桜といえば春。新たな気持ちで、ということも多いと思います。

私の娘も四月から六年生、小学校最高学年になります。一人っ子で甘やかしてしまっと思いうこともありますが、ここまで元気に成長してくれてよかったです。これから大きくなるにつれ、勉強も難しくなり、他にも



いろいろ大変なこともあると思いますが、娘のためにできることはしてあげたいと思うので、これからは元気に頑張ってほしいと思います。

昨年、ある資格取得に挑戦したのですが挫折してしまいました。娘の手本になるためにも、何事にも真剣に取り組み、最後まで頑張らないといけないと思いました。

まだ何を始めようか決めてはいませんが、自分にできることを探して、春には新たな気持ちで頑張っていきたいと思えます。

町での管理をよろしくお願いたいと思います。

現在、水月園の茶屋は江戸屋一軒しかありませんが、かつては三つ友や桜亭もあり、お花見といえば昼夜を問わず賑やかでした。私も高齢者の仲間入りをする齢となり、昔の賑わいを懐かしく思うようになりました。天下に誇るさくらの町の復活と繁栄を祈念致します。

亡き妻の眠りの深し花月夜

植物は植える時は楽しいが、後の維持管理が大切です。今後、桜ボランティアか、維持してくれる団体が現れてくれれば良いかと願っています。それまでは

